

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

千葉県印旛郡酒々井町

○学校名

酒々井町立酒々井小学校

○学校のURL

<http://ptc2.jrscomware.com/sisui/default.asp>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年3学級 【特別支援学級】3学級 【合計】21学級

○児童生徒数

【全児童数】541人(平成24年11月11日現在)
(内訳：1年生89人，2年生85人，3年生103人，4年生90人，
5年生88人，6年生86人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

人間尊重の精神に徹し，豊かな人間性と健やかな心身をもつ，実践力のある
「酒々井小の子ども」の育成

【人権教育に関する目標】

人権を尊重し，他を思いやるとともに，自分のよさや可能性を発揮できる児童
を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

異学年交流をおこなうふれあい活動が，本校の人権教育の大きな柱となっている。
ふれあい活動では，遠足に行ったり遊びや掃除をしたりしているが，特に重要視し
ているのは振り返りの時間である。互いの良さやがんばりを伝え合い，認め合うこ
とで自己有用感の高まりを目指している。自己有用感の高まりは，よりよくなろう
とする気持ちや行動に結びついていき，学級や学年での様々な活動にも効果が現れ
ると考えている。

3. 特色ある実践事例の内容

ふれあい活動（異学年交流）について

1 目的

- ・本校の目指す児童像「仲良く・元気に・がんばる子」の実現のために、全校児童縦割りグループ（ふれあい活動グループ）を作り、異学年交流活動を行う。
- ・地域の子どもが同じ場所に集まっているという学校の特性を生かし、同学年だけではなく異学年の児童が集まり、自主的な活動を通してよりよい人間関係の形成をはかる。

2 活動内容

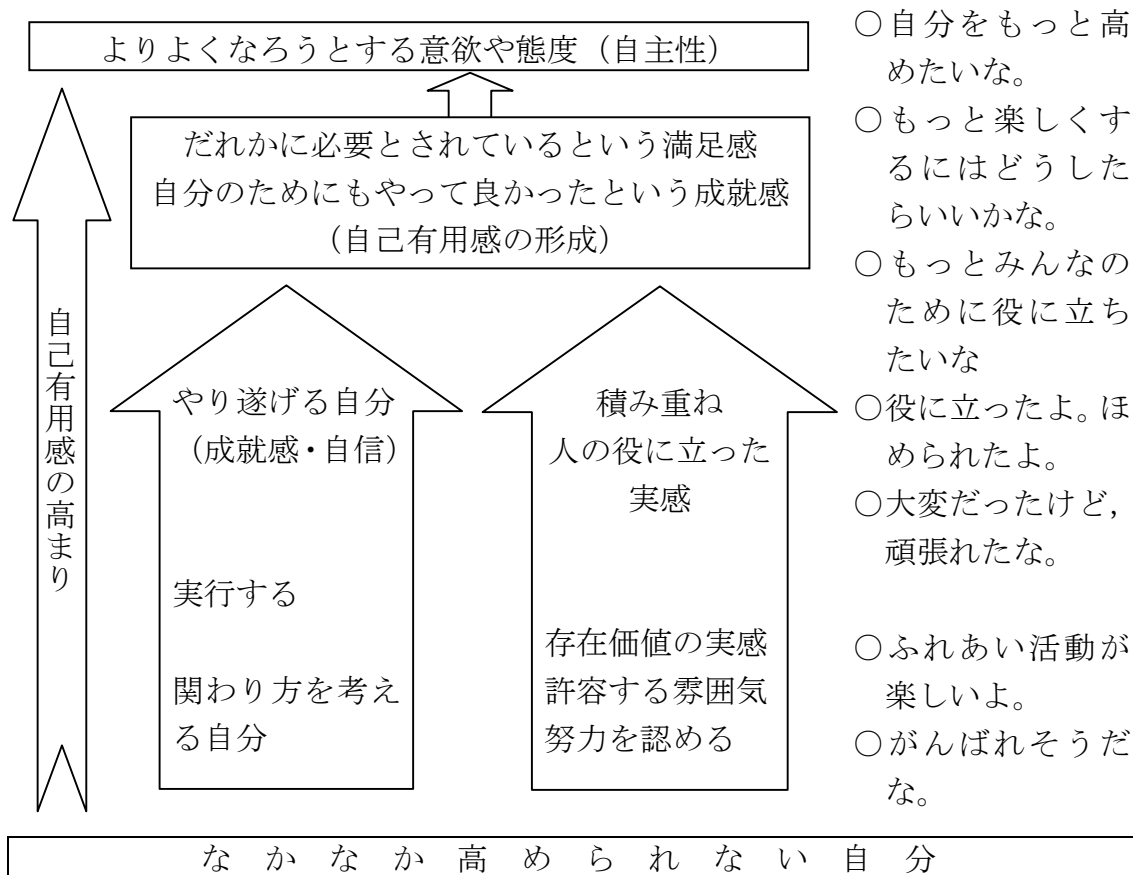
基本的に6年生が計画をするが、徐々に下学年が計画に参加できるようにしていく。2学期からは5年生が、2学期の後半には4年生が計画を体験した。

どの活動についても振り返りの時間を作り、互いの良さやがんばりを認め合うことを大切にしてきた。今後も振り返りの時間は継続して確保し、充実感や達成感を得て、自己有用感を高めるようにさせていく。

【自己有用感】

自己有用感とは、「誰彼ということなく自分は見守られている。この社会の中で認められている。自分の言動が誰かの役に立っている。誰かから必要とされている」そんな思いを実感として強く持つことである。

自己有用感を高めていく過程



①フレンド給食

月に一回、ふれあいグループで給食を食べ、交流を深める。3つの小グループを作り、配膳の当番を順番に行うようにすることで、どの児童も自分の役割をもてるようにした。また、小グループを作ることにより、多くの6年生がリーダーとしての意識を高めることを期待している。年度当初は緊張気味かもしれないが、ともに活動していく中で所属意識を高め、自分がグループの活動に役立っているという感覚を養うようにしていきたい。



フレンド給食の様子

②ふれあいタイム



ふれあいタイムで遊ぶ

月に2回程度、昼休み・掃除の時間帯を使って、ふれあいグループで仲良く遊んだり、全校遠足などの行事にグループ単位で参加したりするための活動をしている。6年生を中心に遊びを考え、み

んなで遊ぶようにしてきた。今年度、2学期からは5年生や4年生が中心になる日を作るなど、他学年も計画に関わることで、グループのために活動しているという意識を高めさせてきた。

振り返りの時間では、高学年からは低・中学年の一生懸命さや楽しんでいる様子について認め、低・中学年からは、互いの良さや計画をした高学年に対する感謝の言葉などが話されることを期待している。

高学年は、活動する前に活動計画を作り、活動ごとに担当の教員から励ましのメッセージをもらうようにしていく。

これらの繰り返しにより、計画を立てる高学年も自信をもって活動に臨むことができるようにしていく。

③全校遠足

10月または11月に酒々井運動公園まで歩いて行き、そこでお互いに助け合って活動することで、よりよい人間関係を作ったり、グループの結束を強めたりしてきた。事前の話し合いで、それぞれの児童がどのように関わることができるかを考え、全校遠足に主体的に関われるようにした。6年生は遠足の活動全体について考え、5年生は遊びの場面でリーダー



全校遠足で遊ぶ

になるようにした。4年生はグループ活動や場所をしおりにまとめ、3年生は昼食の担当をした。23年度からは、5、6年生の代表が合同リーダー会議を開いている。活動内容をしっかり話し合い、リーダーとしての意識が高まってきていることを感じる事ができた。

遠足から帰ってきた後の振り返りでは、高学年の様々な配慮について、下学年児童から感謝の声が聞かれた。

④なかよし清掃

2学期から月・水・金曜日に、ふれあいグループで清掃活動を行っている。ふれあいグループで校内の清掃を分担し、自分の活動がみんなの役に立っているという実感を得られるように、また、高学年がリーダーシップを発揮するように指導している。そのために、それぞれの場所のリーダーがメンバーの活動をよく見て、メンバーのがんばりを認める場を設けるようにしている。月・水曜日はリーダーからメンバーの良さやがんばりを伝え、金曜日にはメンバーから互いに伝えあう方法で振り返りを行っている。



掃除の様子

⑤酒々井音頭

運動会の全校ダンスは例年、酒々井音頭をふれあいグループごとに集まって行っている。運動会の全校練習時やふれあいタイムに練習に取り組み、運動会では保護者にも参加を促し、楽しい雰囲気の中で踊れるようにしている。

⑥ふれあい競技

23年度から運動会では、酒々井音頭の他にふれあいグループの競技を入れている。今年度は縄跳びを跳んだりくぐったりする競技を行った。競技が終わったら児童に募集したふれあい活動の標語をグループのリーダーが発表することで、ふれあい活動の良さを保護者や地域の方々にアピールすることができた。

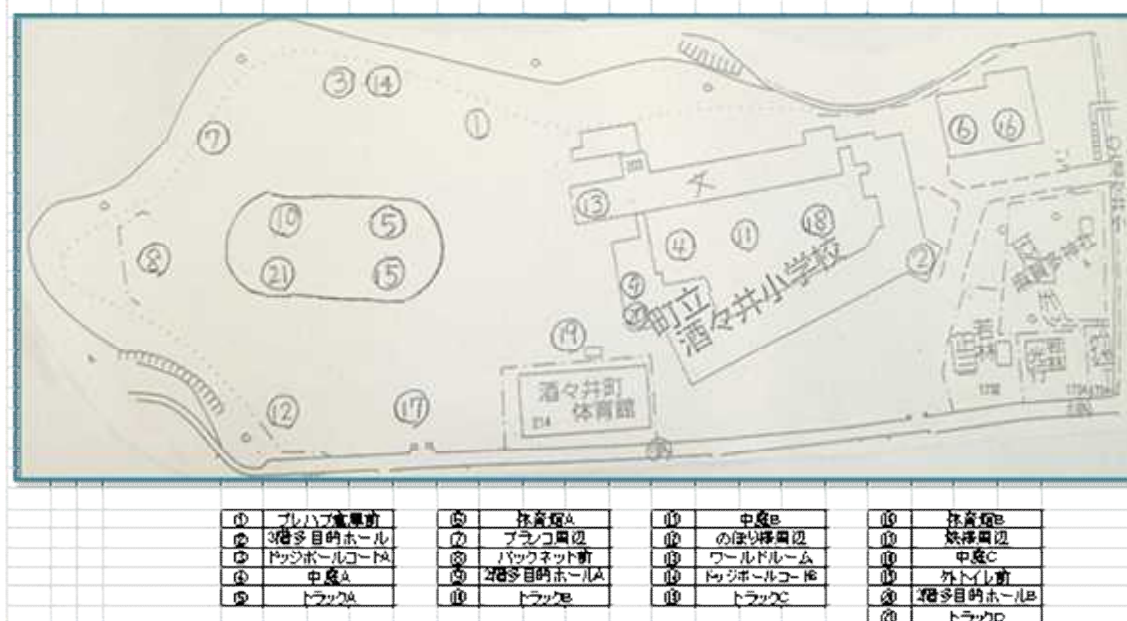


ふれあい競技

3 ふれあいタイムの場所の割り振り

平成24年度 ふれあいタイム 場所の割り振り表

グループ名			9月15日	9月17日	9月24日	9月27日	9月30日	10月3日	10月10日	10月13日	10月18日	10月20日	10月27日	10月30日	11月3日	11月10日	11月13日	11月18日	11月20日	11月27日	11月30日	12月3日	12月10日	12月13日	12月18日	12月20日	12月27日	12月30日	担当者
フレンド給食			火	木	木	火	木	火	木	木	火	木	木	火	木	木	火	木	木	火	木	木	火	木	木	火	木	木	
1組	A 1	今村28(にしゅうろく)			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	今村
	B 2	スズキ28(トウエントイフイグ)			②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	鈴木
	C 3	ハッピーキッズ28(にしゅうろく)			③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	山本
	D 4	なかよしグリーンズ			④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	橋本・近藤
	E 5	タヨッドリーム28(にしゅうろく)			⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	田中・吉原
	F 6	ハッピーフレンド28(にしゅうろく)			⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	井澤・相澤
	G 7	レジェンドスターズ			⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	石井・角田
2組	A 8	権田クローバー			⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	権田
	B 9	MPB28(にしゅうろく)			⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	山本
	C 10	一瀬シスターズ			⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	一瀬
	D 11	なかよしハッピーグループ28の2			⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	山本・大高
	E 12	川崎シャークス			⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	川崎
	F 13	やすはらマイル			⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	東京
	G 14	キングダム(イーエックス)			⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	平沢・野澤
3組	A 15	中里レインボー			⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	中里
	B 16	くらべカレー店			⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	金澤
	C 17	N.Lドラゴンズ			⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	北本・相川
	D 18	下川レインボー			⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	下川
	E 19	プリティーハニーおたか			⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	小高
	F 20	まつてらファイヤーズ			㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	松崎・寺尾
	G 21	なかよしおがっち			㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	小川



配ぜん準備

- ① 4時間目が終わったら、なるべく早くふれあいの教室へ移動しましょう。
(みじたくや手洗い等はふれあい教室でしながら指示を出すことになります)
- ② 3つに分けてある班の中で、どの班が給食を担当するか確認します。(みどり、きいろ、ピンク)
- ③ 準備の班になったら、みじたくをして(してあげて)、それぞれの人が役割を果たしているかどうか確認し、できていたらほめましょう。
- 例:「〇〇さん、自分から進んでストローを配っているね。」
「〇〇さん、上手にもりつけられたね。」
- ④ スムーズに配ぜんできるように声をかけましょう。
- 例:「〇〇さん、今日はデザートがないから、3年生の〇〇を手伝ってくれる?」
- ⑤ 他の班は、班長を中心に静かに待てるようにしましょう。短い本を読むのもよいでしょう。

配ぜん

- ① 配ぜんの用意ができたなら、待っている班に声をかけて、給食を取りに来てもらいましょう。
- 「配ぜんの用意ができたので、取りに来てください。」
- ② 学年に応じた量を盛り付けられるように考えて、声をかけましょう。
「これくらいで食べられそう?」など
- ③ 自分の分担が終わって、手伝うメンバーをほめよう。
- ④ 静かに待っているメンバーをほめよう。

あいさつ

- ① 1年生があいさつ担当の場合、6年生の励ましが力になります。
- 例:「今日は揚げパンなので、砂糖をこぼさないように気をつけて食べましょう。いただきます。」
- 例:「感謝をこめて、いただきますをしましょう。いただきます。」

会食

- ① 場がなごむような話をしながら、楽しいふんいきを作りましょう。
- 例:好きなもの、得意なこと など
- ② 残さずに食べたメンバーや、嫌いなものでも頑張っているメンバーをほめよう。
- ③ マナーを守って食べられるように声をかけましょう。

あいさつ

- ① 今日の給食を振り返りましょう。マナーのよい人をほめたりするとよいと思います。
- 例:「〇〇の話が出て、楽しかったです。」
「〇〇さんは、きれいな野菜を一口でも食べようとがんばっていました。」
- ② 次の遊びの場所を伝えましょう。
- ③ 2年生があいさつ担当の場合、6年生の励ましが力になります。
- 例:「楽しい話ができてうれしかったです。ごちそうさまでした。」
「感謝をこめて、ごちそうさまをしましょう。」

片づけ

- ① それぞれの人が役割を果たしているかどうか確認し、できていたらほめましょう。
当番の班は給食の片付け、当番以外の班は机を戻したりゴミ拾いをしたりします。
- 例:「よく気がついてやれたね。」「きれいに片づけができたね。」
- ② 何をしたらいいかわからないメンバーには、やることを教えてあげましょう。
- ③ みんなで使った教室をきれいにするという気持ちでできるように、はげまそう。
- ④ 片づけが終わったら、次の活動場所へ移動するよう声をかけましょう。
「荷物をろうかのロッカーに入れてから、〇〇へ集合してください。」

その他

- ① 持ち物は、給食袋（マスク，ランチマット，歯ブラシ，コップ），防災頭巾，紅白帽子です。当番の班はさらに，三角巾，エプロンが必要になります。

5 フレンド給食とふれあいタイムの活動予定

月	日	曜	内 容（のびのびタイムに活動する）
4月			・ふれあいグループづくり（学級で7つに分けておく）
5月	7 月		・ふれあいグループ編成（組み合わせてチェック）
	10 木		・ふれあいグループリーダーの打ち合わせ（5，6年生合同）
	15 火		・ふれあいタイム…グループ顔合わせ・遊び
	17 木		・ふれあいタイム…グループ掲示物の作成
	24 木		・フレンド給食…みどり ・ふれあいタイム…遊び
6月	7 木		・ふれあいタイム…遊び
	19 火		・フレンド給食…きいろ ・ふれあいタイム…遊び
7月	3 火		・フレンド給食…ピンク ・ふれあいタイム…遊び
9月	11 火		・ふれあいタイム…酒々井音頭の並び方，踊り方の練習
	13 木		・フレンド給食…みどり ・ふれあいタイム…ふれあい競技の確認 （酒々井音頭，競技は全体練習の中でも練習を実施2～3回） ◎運動会での取組み（全校酒々井音頭，ふれあい競技）
10月	3 水		・なかよし清掃会議（掃除場所の確認）
	4 木		・全校遠足のためのリーダー会議
	11 木		・ふれあいタイム…しおりの配付，分担の確認，（遊び）
	18 木		・ふれあいタイム…行くときの並び方，安全について，（遊び）
	19 金		・全校遠足
11月	8 木		・ふれあいタイム…遊び
	15 木		・フレンド給食…きいろ ・ふれあいタイム…遊び
	28 水		・なかよし清掃会議（掃除場所の確認）
	29 木		・フレンド給食…ピンク ・ふれあいタイム…遊び
12月			
1月	17 木		・ふれあいタイム…遊び
	29 火		・フレンド給食…みどり ・ふれあいタイム…遊び
2月	6 水		・なかよし清掃会議（掃除場所の確認）
	14 木		・ふれあいタイム…遊び
	19 火		・ふれあいタイム…6年生へのメッセージ作り
	21 木		・フレンド給食…きいろ ・ふれあいタイム…メッセージ作り，（遊び）
3月	1 金		6年生を送る会の後… ・フレンド給食…ピンク ・ふれあいタイム…6年生に感謝する会

- ※後日「活動日時・活動場所一覧表」「ふりかえりカード」を配布する。
- ※ふれあいタイムの遊びは、子ども達のアイディアを生かした内容で工夫する。
- ※雨天時は教室でエンカウンター的なゲームを行う。(ふれあい活動ファイルを活用・充実)
- ※1年生から6年生までが、できる限り満足できるような活動を工夫する。ルールを自分たちで変えたり、学年別のルールを決めたりする。

その他、人権教育につながる活動

①なかよし映画会

1～3年生、4～6年生に分かれて、いじめや思いやりの心について考える映画会を実施した。その後クラスごとに話し合いを行い、一言感想を教室内または廊下に掲示し、互いの感想を読み合った。

②人権作文

日ごろの生活の中で考えた人権に関わることを作文にして、自分の心と向き合う活動を、全児童を対象に行った。

また、学級から1点ずつ作品が掲載されている酒々井町小中学生人権作文集を配付し、掲載作文を全て読んだあと感想を書くようにした。身の周りの人権に関わるできごとを意識したり発見したりすることにつながっている。

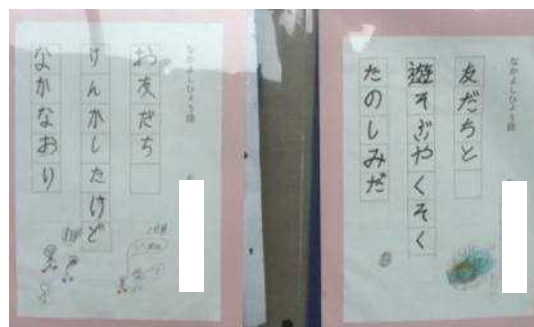


人権作文の校内放送

③人権標語

5, 6年生を対象にした「印旛郡市小学生人権標語コンテスト」に応募する時期に合わせ、5, 6年生全員が人権標語を作った。日ごろのできごとを思い出しながら、言葉を選んで取り組んでいた。

また、1～4年生は「なかよしカルタ」「なかよし標語」など、学年に応じて標語作りに取り組み、人権週間には廊下等に掲示した。



④人権集会

5, 6年生の人権標語代表作品を作った児童が、作品や作品に込めた思いを紹介した。それぞれの発表を通し、人権標語代表作品がより身近に感じられるようになった。また、集会の後半は、異学年を組み合わせ友だちの良さを互いに紹介し合う活動を行った。



人権集会での発表の様子



⑤人権ポスター

6年生を対象に、人権に関わるポスター作りを行っている。自分や友達を大切に
する気持ちや願いを絵に表した。代表作品は各教室に1年間掲示している。

⑥ほのぼのの木

各学級に、ほのぼのの木と呼ばれる掲示物を作っている。友だちや自分のことで
がんばったこと、よかったことを見つけ、小さな葉っぱに書き、掲示している。中
には他学級、他学年の友だちのがんばりにふれているものもある。定期的に校内放
送でも紹介している。

校内環境整備

①人権の花（平成23年度）

花の栽培を通じて児童に命の大切さや思いやり
の心を身に付けることを目的に、千葉地方法務局
佐倉支局と佐倉人権擁護委員協議会から贈ら
れた人権の花、シャクヤクの植樹式が行われ
た。式には6年生が出席し、両団体から贈ら
れたシャクヤクの球根30株を、校庭の花壇
年の春には、花を咲かせることができた。



に丁寧に植えた。翌

②校内掲示



なかよし映画会コーナー



ふれあい活動コーナー



グループ紹介コーナー



ほのぼのの木コーナー



人権標語コーナー



全校遠足コーナー

4. 実践事例の実績、実施による効果

ふれあい活動が効果を上げた実際の事例

- A：遊びや掃除などの活動と一緒に互いが名前呼び合えるようになってきた。教室移動や行事など、ふれあいタイム以外でグループの友だちと会っても、笑顔になったり手を振ったりする姿が見られるようになった。また、休み時間などでは、自然に会話が始まったり一緒に遊び出したりしている。これらの様子がよく見られるようになったことで人間関係が深まったことが伺える。
- B：振り返りの時間に友だちの良さががんばりを伝えることになれてきた。活動しながら、グループの友だちの良さに気付く目をもてるようになってきたようである。はじめは高学年から、徐々に下の学年でも振り返りの時間に発言できるようになってきた。学級で行われる毎日の振り返りと合わせて相乗効果があるように思われる。

取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

- A：振り返りをすることにより友だちや自分の良さががんばりを伝えることができ、グループ内で共有することができる。そのため、ふれあいタイムやなかよし清掃、全校遠足など、ふれあい活動を行った時には、必ず振り返りの時間を設けることとした。
- B：互いを名前呼び合うことにより、所属意識や自分が大切にされている感覚を養うことができる。そのため、ふれあい活動を行うときには大型名札をつけ、ひらがなで名前を書くようにした。さらに、名札は、卒業時の6年生からのプレゼントとして次年度に引き継ぐようにした。音楽が好きな子には楽器の絵を入れたり、裏にはメッセージを入れたりした。今年度は全学年で英語活動が始まったこともあり、裏はアルファベットで書かれた名札にした。
- C：グループ内での役割があると、意欲をもって活動に参加できることが分かった。そのため、グループをさらに3つの小さなグループに分け、持ち回りで給食の配膳に当たった。
- D：以前はなかよし清掃を、ふれあいグループとは別の異学年グループで行っていたが、互いに顔見知りであるグループである方が清掃活動も進むことが分かった。そのため、なかよし清掃もふれあいグループに割り振るように変更した。人間関係は更に親密になってきた。
- E：はじめは6年生が中心になって遊びを計画し、全校遠足からは5年生が中心になって遊びを計画しているが、初年度は、遊びのルールが複雑だったり、説明がうまく伝わらなかったりした。そこで、全校遠足前に、5、6年生が合同でリーダー会議を開くことにした。遊びの場所を割り振ったり、どのようなことに配慮すればよいかを伝えながら一緒に遊びを考えるようにした。

5. 実践事例についての評価

取組についての評価及びそう評価する理由

ふれあい活動を中心にした取組は、総合的によいと評価する。

【理由】

- ふれあいタイムや全校遠足の遊びの計画をした高学年は、みんなに喜んでもらったり、お礼を言われたりする機会が増え、自己有用感の高まりを見ることができた。
- 異学年交流活動をとおして、他学年児童とも名前を呼び合い、楽しく活動に参加することができ、所属意識も高まった
- フレンド給食や全校遠足などでは、役割と分担がはっきりしたことにより積極的に準備や片付けに取り組むようになった。

保護者や地域住民からの反応

- ふれあい活動を日常的に取り入れてもらっているので、異学年の子ども達とかかわることが多くなり有り難い。
- 全校遠足などに、地域をあげて参加することで、子ども達とのつながりが持てて嬉しく思っている。
- 地域の子ども達を地域で育てるという意識が高まってきている。

現在、実施にあたって課題と感じていること

- グループ内の親密感や所属意識は高まったが、慣れから言葉遣いが乱れてしまったり、名前が呼び捨てになってしまったりする場面が見られた。誰に対してもやさしい言葉遣いや呼び捨てにしない関係を築いていく必要がある。
- 振り返りの時間に相手を認める発言が難しく、6年生による反省の言葉に頼る児童がいる。今後工夫していきたい。常時活動の中でも、よいところを見つけ伝えられるようにしていきたい。
- 事前の学級での指導が十分行われず、目的や意欲を持たずに参加する児童も見られた。学年に合わせた事前指導の方法や内容を検討していきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

酒々井町立酒々井小学校

縦割り班による「ふれあい活動グループ」を組織し、可能な限り異学年交流の機会を設けている点が目を引く取組である。ふれあい活動は、フレンド給食、なかよし清掃、種々のふれあいタイム、全校遠足等々と多岐にわたっており、活動の場も豊かであり、確かな成果が得られている。日々の諸活動が学年・学級単位を基本としているだけに、異学年交流のもたらす効果は大きい。その分、トラブルも発生するだろうが、それらを乗り越え、学年を越えた絆を深めていくところに価値がある。

また、行事のしっぱなしに終わらせるのではなく、「振り返りの時間」に力点を置き、活動に対する真摯な見直しを行う中で、子どもたちに充実感や達成感、自己有用感を味わわせている点が評価される。自己有用感・自己効力感の育成は、人権教育のめざす self-esteem（自尊感情）の育成に直結するものである。